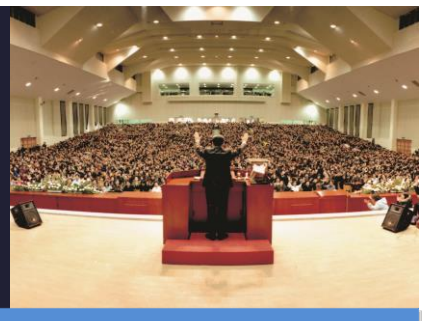
第 2019-13 号

# 恵みと真理のニュース



2019 年 03 月の五次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

## ［証］

### エベン・エゼル（助けの石）神様を賛美します。

多くの方々の中で私を選んでくださり新しい命を与えてくださってこの地に生きる間、主の中で幸せな人生を生きるようにしてくださった神様の大きい恵に感謝を捧げます。
私はイエス様を信じない家庭で育てられ偶像崇拝をする家庭で嫁に行きました。旦那は真面目で誠実な人で舅姑も優しくて愛が多かったです。ところが、酷く偶像崇拝をしました。家に何かあることに巫女を呼んで祭祀をしました。神様は私を哀れんでくださり伝道者を送ってくださいました。村の勧士がわたしの家に来て宇宙の万物は創造主である神様の御言葉で造られたという話、人は全てが罪人で生まれてイエス様を救い主で信じると天国に行って信じないと地獄に行くなど話しをしてくれました。
しかし、そんな話は私は耳に入らなかったです。私が持った世の知識と経験で判断して排斥しました。ただし、勧士の性品が良くて仲良く過ごしました。
家族を見守るとたまには大変で教会に行きたい心もありました。そうする中で長女の友達のお母さんが恵と真理教会の区域長が教会の特別伝道の期間に私を探しに来て熱心に伝導しました。伝えてくださる福音には興味が出来て教会に来るようになりました。区域長は聖書を与えて礼拝をよく捧げるように導いてくださいました。あれこれで教会の生活の大して優しく教えてくださいました。
信仰生活のはじめは旦那とわたしの家の近くに住んでいる舅姑のせいで教会に行けなくて区域長の家で捧げる区域礼拝だけ参席する場合が多かったです。区域礼拝を捧げて聖徒と交際しながら教会で捧げる礼拝を待ち望みました。迫害があっても勇気を出して教会に行って当会長の牧師の説教を聴きながら日々信仰が成長しました。神霊な神様の御言葉を聞いて悟りながら徐々に聖書的な正しい宇宙観、歴史観、生死観、価値観などを持つようになりました。
家庭の福音化のため神様に切に祈りました。教会に通いながらただ楽しくて幸せでわたしの変わった姿を見て旦那がある時から福音に耳を傾けて結局教会に来て決信をしてイエス様を受け入れました。二人の娘も教会学校で聖書を習って全ての家族が神様に礼拝を捧げて祈って賛美する幸せな家庭になりました。
私は長い間、 体が弱くて頭が痛かったので苦労しました。症状がもっと悪化されて脳に症状があると思い病院に行って MRI 撮影もしましたが、どんな異常もなかったです。ラパの神様がわたしの弱い体を癒してくださるのを願い求めました。健康でもっと主の事をして子供を養育するように祈りました。神癒に関する当会長の牧師の説教を再び聴きました。礼拝時間に牧師が癒しと祝福の祈りをなさる時は大きい声でアーメン、アーメンと答えました。そうしたら痛みが減り始めて自分も知らずに苦痛だった頭の痛みがなくなりました。
婚家と実家の家族みんなの救いのため一人ひとり名前を呼びながら祈りました。仏教信者でお寺に通った舅が 帯状疱疹の後遺症で兄の家で床についていましたが、気力がなくもうこの世を離れる時が来たのを直感した私は急いで牧師に訪問を頼みました。牧師が神様の御言葉を伝えて祈ってくださると舅はイエス様に対する信仰を告白しました。そして、翌日、家族に最後の笑顔を見せて安らかに息を引き取りました。するとイエス様を信じない兄が先にキリスト教の葬式をしようと勧めました。召天礼拝、葬式礼拝、入管礼拝を次々捧げながら婚家の家族が神様の御言葉で大きく慰めを受けて一人一人の心に福音の種が巻かれました。無信論者で性品が厳しくて自分主張が強くて私が信仰生活するのを反対した父もイエス様を受け入れて苦難を受けて亡くなりました。肺癌の末期で３ヶ月しか生きることが出来ないと言われた父の命を７年間延長してくださいました。
旦那が経営した事業の状況が難しくなり急に辞めるしかなかったです。最善を尽くして働いた旦那はもちろんで特に子供達が大きく衝撃を受けました。私達の夫婦は子供達を安心させて涙で閉業礼拝を捧げながら神様の摂理と導きを求めました。ローマ書８章２８節“神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということを、わたしたちは知っています。”という御言葉とイザヤ４１章１０節　御言葉　フィリピの手紙４章６，７節の御言葉を強く信じました 。神様が助けてくださり、節理してくださることを信じ絶望しませんでした。
経済的で大変でも私達の夫婦は相変わらず神様を愛し信頼して時間と体を捧げて主の事をしました。わたしの家庭の状況と事情を全部知る主が将来を責任してくださることを相変わらず信じ、礼拝と奉仕に力を尽くします。すると神様は旦那に新しい事業を開かれるようにしてくださいました。そうして旦那は以前よりやりがいを感じ忠実に事業をしています。
私達の夫婦と子供達に教会で奉仕する機会と恵を下さった神様に感謝を捧げます。長女は教会学校の教師として献身しながら誠実な青年に出会い結婚して教会学校の教師夫婦として献身する幸せな家庭を作りました。下の娘も心と体が健康でイエス様をよく信じています。従って、神様は娘の道を導いてくださり用いてくださることを信じます。神様は私に首区域長の職分と共に人々を助ける宣教会で奉仕する尊い職分を下さって、熱心に人々を仕えて福音を伝えながら世では感じられない幸せを享受するようにしてくださいました。
このように私達に多彩で豊かな救いの恵みを与えてくださった神様に感謝を捧げます。主が再び来られるその日まで聖なる行いで主が望むのを願い愛しながら生きます。最も神様を愛して御言葉に従順し神様と共に生きるため力を尽くします。エベン・エゼル（助けの石）神様を賛美します。

## ［信仰コラム］　心が頑なにならないようにしなさい

**”...罪の惑わしに陥って，心をかたくなにする者がないように，「きょう」といううちに，日々， 互に励まし合いなさい。”**

’頑なだ’という言葉は気が荒くて我が強いという意味で解かれます。聖書には’頑な’という言葉が主に神様の前で反抗的な人間の態度に対して使われています。本分に記録された”頑なにならないようにしなさい”という御言葉は神様との関係で私達が実践すべきの心持ちと行動に対する勧告であり命令であります。
“「きょう，あなたがたがみ声を聞いたなら，荒野における試験の日に，神にそむいた時のように，あなたがたの心を，かたくなにしてはいけない。”としました。
’神様のみ声’は神様の御言葉を意味します。神様がさばきつかさ達と予言者達に言われた御言葉が聖書に記録されました。神様が時になり、救い主イエス様をこの世にお送りなさい人生達に直接言われました。イエス様の全ての行跡は神様が人生達に言われる御言葉それ自体です。今日私達は予言者達とさばきつかさ達を通じて記録された神様の御言葉である聖書を持ちました。聖霊が聖書で私達各人に神様の御言葉を聞かせてくださいます。神様の御言葉を大きく二種類に分けると約束と命令です。約束の御言葉は聞く者に信仰を求めます。命令の御言葉は聞く者に従いを求めます。信じて従うためには心が頑なにならないようにすべきです。
”あなたがたの中に，罪の惑わしに陥って，心をかたくなにする者がないように”としました。罪の惑わしとは神様の御言葉より自分の感情と考えを先に立たせることを言います。
偉大な人物であるモーセも罪の惑わしに揺られた時があります。イスラエルの中に混ぜられている雑種の民に従ってイスラエルの子孫も泣きながら不満を言うと、モーセが神様に、まるで自分の能力でイスラエル子孫をカナンに導いているように話しました。会衆が水がないのでモーセとアロンをねじ込んだ時にモーセはもう一回誤りを犯しました。神様が岩に命じないと言われたら命じるべきであったのに、モーセは”そむく人たちよ，聞きなさい。われわれがあなたがたのためにこの岩から水を出さなければならないのであろうか”と言い、その手をあげ杖で岩を二回打ちました。頑なだということは神様の御言葉をその通りに受け入れない態度を言います。
”あなたがたの中に，罪の惑わしに陥って，心をかたくなにする者がないように，「きょう」といううちに，日々，互に励まし合いなさい。”としました。
神様が私達を放置して置かれると私達は生まれついた本性と罪の惑わしによって頑なを免れないでしょう。従って、頑なになることを免れるよう神様に謙遜に叫んで求めるべきです。また、罪の惑わしで私達の心が頑なになることを免れるために聖徒達は会って互いに勧めるべきです。神様の御言葉を聞くために集まらなければなりません。様々な奉仕の集まりに参加して互いに勧めることをすべきです。頑なにならないよう勧めるべきで、勧めを受ける直ちに頑なな心を捨てるべきです。
頑なになることを免れるために必ず実践すべきのことがあります。物事を神様に感謝することです。万が一、イスラエル子孫が物事に感謝したなら心が頑なにならなかったでしょう。モーセが民達の恨みが気味が悪かったとしても、このような群れを導くことができるように能力を与えてくださった神様に感謝したなら大きな誤りをしなかったでしょう。そしてカナンの地まで民を導く楽しみを享受できたでしょう。
”もし最初の確信を，最後までしっかりと持ち続けるならば，わたしたちはキリストにあずかる 者となるのである”としました。
細やかなことでも喜んで神様に感謝する最初の信仰、最初の愛を持つべきです。心が頑なになると神様が与えてくださる福と恵みを受けられないだけではなく、受けた福と恵みまで喪失します。イスラエル民の心に傲慢とどん欲が入るとエジプトから解放され乳と蜜が流れるカナンに行っているという最初の喜びと感激がなくなってしまいました。彼らの心が惑わされ神様の知恵と能力で導きを知らず、恨みと不評を注ぎました。そうして心が頑なになった彼らは乳と蜜が流れる業の地カナンに入られず広野で死にました。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

# 斥候の人本主義と神本主義

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

人本主義は人が中心であり、神本主義は神が中心です。人本主義は、アダムとエバがサタンの誘いに陥って神の命令を不従順して善を知る木の実を取って食べた事件から出て来ています。人本主義は人の栄光をためで、人を喜ばせるために働きます。そして、自分の意のままに生きていきます。神本主義者は、神の栄光をためで、神を喜ばすために働きます。そして、神の御旨と言葉に従って生きていきます。人本主義から出てきた三つの幹があります。無神論と偶像崇拝と疑似クリスチャンです。疑似クリスチャンの中には、宗教多元主義と、宗教混雑主義、宗教一致主義、また各種の異端があります。疑似とは表面上はにているように見えるが実際には全く異なるものです。

アダムが堕落した後、人類の歴史は、人本主義の歴史だと言っても過言ではありません。しかし、少数の神本主義者が存在しました。彼らは神から選ばれている神の御旨を明らかに啓示を受けた人々です。これらの代表する名を列挙するとアベル、セト、エノス、エノク、ノア、アブラハム、イサク、ヤコブとヤコブの息子たちです。そしてヤコブの子孫で形成されたイスラエル民族です。神が定められた時になって、神の預言者たちが預言したように、イエス・キリストがこの世に来られました。そして罪人たちのために贖いの死を死んで復活して天に昇ぼられました。また、弟子たちに約束した聖霊を送ってくださいました。そしてから教会が設立され、福音が広く伝播され、今日に至っています。イエス・キリストの再臨の前に福音は全世界にすべての人に伝播されます。

サタンは人本主義者が神本主義者にならないよう防ぐのと神本主義者が人本主義に転落するように脅かして惑わすことをしています。聖書には、このような事実がなん回、いろいろな形で記録されています。また、聖書は、人がどのようにすれば神本主義になるのが出来るか、人本主義者に転落していない可能性があるのかを教えています。今日は、イスラエルの十二人の斥候たちの記録に現れた人本主義と神本主義を見てみましょう。

神がアブラハムに約束されたとおり、その子孫がエジプトに行って繁栄して大きな民族を遂げ、400 年以上の後に、彼らは、神が彼らの先祖に与えられた企業の地のカナンに行こうと民族の大移動をしました。神が立てられた指導者であるモーセは、神が遣わされた雲の柱、火の柱の導きを受けて、イスラエルの子らを率いて行きました。エジプトを離れたイスラエル人は、約 1 年の間に、シナイ山の下に滞在し、モーセを通して、神様が与えられた十戒と律法を受け、神と契約を結びました。偶像崇拝を清算し、神本主義の神の中心に、神の御旨と御言葉に従って生きると契約して誓いました。

イスラエルの子孫がシナイ山を離れて行進してカデシュ・バルネアに到着しました。出エジプトから 2 年が経ちました。モーセは、この場所をカナン征服のための拠点として、その場所で十二人の斥候を送り、カナンの地を偵察しました。モーセは彼らに六つのものを知って来るよう命じました。

第一に、その地の住民の強弱について　第二に、その地の住民の多少について 第三に、土地と気候の条件について 第四に、軍事的防御施設について 第五に、土地が農業を建てるにもいいかについて 第六に、樹木の有無について調べてみなさい。斥候は 40 日にかけて詳しく観察して戻って来ました、彼らの見解との判断を民に明らかにしました。カナンの地が果たして乳と蜜の流れる地であるという事実を確認して感じたのは十二人が皆同じでした。しかし、カナンの地占領については見解が違いました。

ヨシュアとカレブを除いた 10 人の斥候の見解と判断はこうしました。**「しかし，　彼とともにのぼって　行った　人々は　言った，　「わたしたちはその　民のところへ　攻めのぼることはできません．　彼らはわたしたちよりも　強いからです　」．　そして　彼らはその　探った地のことを，　イスラエル　の　人々に　悪く　言いふらして　言った，　「わたしたちが　行き巡って　探った　地は，　そこに　住む　者を　滅ぼす　地です．　またその　所でわたしたちが見た　民はみな　背の　高い　人々です．　わたしたちはまたそこで，　ネピリム　から　出た　アナク　の　子孫　ネピリム　を　見ました．　わたしたちには　自分が，　いなごのように　思われ，また　彼らにも，　そう　見えたに　違いありません」（民數記　13：31~33）**しました。イスラエル人は、十人の斥候の報告を聞いて声を上げて叫びました。彼らは絶望感を感じて一夜中に嘆き泣きました。

すべてのイスラエル人がモーセとアロンを恨んで、全会衆は彼らに言った、　**「また　イスラエル　の　人々はみな　モ　―　セ　と　アロンにむかってつぶやき，　全会衆は　彼らに　言った，　「ああ，　わたしたちは　エジプト　の　國で　死んでいたらよかったのに．　この　荒野で死んでいたらよかったのに．　なにゆえ，　主はわたしたちをこの　地に　連れてきて，　つるぎに　倒れさせ，　またわたしたちの　妻子をえじきとされるのであろうか．　エジプト　に　帰る　方が，　むしろ　良いではないか」（民數記　14：2,3）**として**「私たちが一人の長官を立てエジプトに戻ろう。」**としました。主はモーセとアロンに言われた、**「わたしにむかってつぶやくこの　悪い　会衆をいつまで　忍ぶことができようか．　わたしは　イスラエル　の　人々が，わたしにむかってつぶやくのを　聞いた．　あなたは　彼らに　言いなさい，　『主は　言われる，　「わたしは　生きている．　あなたがたが，わたしの　耳に　語ったように，　わたしはあなたがたにするであろう．　あなたがたは　死体となって，　この　荒野に　倒れるであろう．あなたがたのうち，　わたしにむかってつぶやいた　者，　すなわち，　すべて　數えられた　二十歳以上の　者はみな　倒れるであろう．　エフンネ　の　子　カレブ　と，　ヌン　の　子　ヨシュア　のほかは，　わたしがかつて，　あなたがたを　住まわせようと，　手をあげて　誓った　地に，　はいることができないであろう」（民數記　14：27~30）**しました

ヨシュアとカレブは、これらの人々を見ながら自分の服を引き裂き声高ました。**「ただ，主にそむいてはなりません．　またその　地の　民を恐れてはなりません．　彼らはわたしたちの食い　物にすぎません．　彼らを　守る　者は　取り　除かれます．　主がわたしたちと　共におられますから，　彼らを　恐れてはなりません」（民數記　14：9）**十人の斥候は、カナンの地を偵察しながら問題点を発見し、自分たちをいなごのように劣って考えました。そして、恐怖を陥れて民に否定的であり、絶望的な報告をしてエジプトに戻って行くと衝動を持つようにしました。一方、ヨシュアとカレブは、その問題点をご飯で考えました。そしてまっすぐカナンに進撃して、その地を占めようと言いました。

民数記 13 章と第 14 章にわたって記録されたこれらの事件は、神の選民イスラエルの人でも精神気付かなければ神本主義を離れて人本主義に行動するようになるという教訓を聞かせてくれます。10 人の斥候は、神の契約と指示を不信し不従順して人本主義に転落しました。

しかし、ヨシュアとカレブは終始神本主義に行動しました。これはいくつかでまとめてみましょう。

**第一に、ヨシュアとカレブは神の良さを信じていました。**

ヨシュアは言った、**「もし，主が　良しとされるならば，　わたしたちをその　地に　導いて行って，　それをわたしたちにくださるでしょう．　それは　乳と　蜜の　流れている　地です」（民數記　14：8）**しました。神の良しさを確信すると落胆と恨みは私たちの心に滞在する場所がありません。

**第二に、ヨシュアとカレブは神が全能でおられるのを信じました。**

**「わたしたちはすぐにのぼって，　攻め　取りましょう．　わたしたちは　必ず　勝つことができます」（　民數記　13:30）**しました。私に不可能なことが、神様も不可能だという錯覚をしないでください。

**第三に、ヨシュアとカレブは神は真実であって、神の言葉も真実であることを信じていました。**

十人の斥候は言った、**「そして　彼らはその探った　地のことを，　イスラエル　の　人々に悪く　言いふらして　言った，　「わたしたちが行き　巡って　探った　地は，　そこに　住む　者を　滅ぼす　地です．　またその　所でわたしたちが　見た　民はみな　背の　高い　人々です」（民數記　13:32）**としました。彼らは約束の地には、報告もその真価を知らないでした。ヨシュアは言った、**「イスラエル　の　人々の　全会衆に　言った，　「わたしたちが　行き　巡って探った　地は　非常に　良い　地です．　もし，主が　良しとされるならば，　わたしたちをその　地に　導いて　行って，　それをわたしたちにくださるでしょう．　それは　乳と　蜜の　流れている　地です」（民數記　14：7,8）**しました。神が真実おられるのを信じれば、すべてを神の言葉に照らして解釈します。神の真実おられるのを信じれば不安な気持ちが離れていき平安があふれて早急に行なわずに忍耐します。

**第四に、ヨシュアとカレブは、神様がともにおられるのを信じています。**

ヨシュアは言った、**「ただ，　主にそむいてはなりません．　またその　地の　民を　恐れてはなりません．　彼らはわたしたちの　食い　物にすぎません．　彼らを　守る　者は　取り　除かれます．　主がわたしたちと　共におられますから，　彼らを　恐れてはなりません」（民數記　14：9）**しました。神が共におられるのを信じれば恐れが退いて行って大胆になります。ダビデは詩篇で**「たといわたしは　死の　陰の　谷を　歩むとも，　わざわいを　恐れません．　あなたがわたしと　共におられるからです．　あなたのむちと，　あなたのつえはわたしを　慰めます」（詩 23：4）**としました。

十二人の斥候に関するお話は、私たちに鏡との警戒になります。人本主義は神の言葉の外で考えて判断し行動し、神本主義者は、神の言葉の中で考えて判断し、行動するというメッセージを聞かせてくれます。皆さんはすべての神の言葉を完全に信じて従う神本主義者として生きて行かれるのを願っております。